

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2021年2月10日

【四半期会計期間】 第76期第3四半期(自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)

【会社名】 オルガノ株式会社

【英訳名】 ORGANO CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 内 倉 昌 樹

【本店の所在の場所】 東京都江東区新砂1丁目2番8号

【電話番号】 03(5635)5105

【事務連絡者氏名】 経営統括本部 経理部長 安 藤 実

【最寄りの連絡場所】 東京都江東区新砂1丁目2番8号

【電話番号】 03(5635)5105

【事務連絡者氏名】 経営統括本部 経理部長 安 藤 実

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第75期 第3四半期 連結累計期間	第76期 第3四半期 連結累計期間	第75期
会計期間	自 2019年4月1日 至 2019年12月31日	自 2020年4月1日 至 2020年12月31日	自 2019年4月1日 至 2020年3月31日
売上高 (百万円)	67,352	68,736	96,515
経常利益 (百万円)	7,419	5,421	9,929
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	5,151	3,584	7,162
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	5,029	3,626	7,029
純資産額 (百万円)	58,861	63,335	60,857
総資産額 (百万円)	103,389	108,616	101,448
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	450.41	312.52	626.05
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	56.8	58.2	59.9

回次	第75期 第3四半期 連結会計期間	第76期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日	自 2020年10月1日 至 2020年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	131.90	130.89

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 役員向け株式交付信託が保有する当社普通株式を、1株当たり四半期(当期)純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当連結会計年度の第3四半期（2020年4月1日～2020年12月31日）は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に伴い、国内・世界経済とも大きく混乱する中で推移いたしました。当社グループを取り巻く主要な市場の動向につきましては、電子産業分野においてテレワーク等の拡大や5G通信の本格化など半導体需要が高まる中、米国・中国による半導体摩擦の激化の影響もみられたものの、生産・投資については国内外とも高い水準で推移いたしました。一方、一般産業分野ではコロナ禍の影響で設備投資を抑制・延期する傾向が続き、一部の顧客では生産水準の落ち込みもみられたことから、水処理薬品やフィルター、食品加工材など機能商品の販売にも影響が出ております。電力・上下水分野については概ね前期並の水準で推移しており、大きな影響は生じておりません。

このような状況の下、当社グループは、国内外の移動の制限や自粛により、新規事業の展開や新たな顧客の開拓、海外の体制強化などの取り組みには影響が生じたものの、各種のコミュニケーションツールやICT技術を活用したエンジニアリングツールを導入するなどエンジニアリング・ソリューションサービスおよび管理業務のデジタル化を推し進め、感染拡大の防止と事業活動の両立に努めてまいりました。この結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、受注高72,075百万円（前年同期比11.2%減）、売上高68,736百万円（同2.1%増）となり、繰越受注残高は71,114百万円（同2.1%減）となりました。利益面につきましては、営業利益5,261百万円（同29.6%減）、経常利益5,421百万円（同26.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益3,584百万円（同30.4%減）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

[水処理エンジニアリング事業]

当事業におきましては、電子産業分野において、国内では大型案件の受注があった前期に比べプラント部門の受注高が減少したものの、前期に受注した大型案件の順調な工事進捗や、高い生産水準を背景としたソリューション部門の伸展により売上高は堅調に推移いたしました。また海外では台湾・中国を中心に半導体に対する大型投資が続いたことに加え、メンテナンス等のソリューションサービスも好調に推移し、受注高・売上高が大きく伸びました。一方、一般産業分野につきましては、コロナ禍により設備投資を延期・抑制する動きが続いていることから国内外でプラント部門を中心に受注高・売上高が減少しております。電力・上下水分野では上下水関連の大型案件の受注や電力関連のメンテナンス工事が順調に推移するなど概ね前期並の水準で推移しております。この結果、受注高58,254百万円（前年同期比13.5%減）、売上高55,169百万円（同3.3%増）となりました。一方、利益面につきましては電子産業分野を中心に比較的採算性の良い案件やコストダウン効果の大きかった案件の売上が集中した前期に比べ利益率が低下したことにより、営業利益4,364百万円（同32.4%減）となりました。

[機能商品事業]

当事業におきましては、年の後半にかけて若干の回復がみられつつあるものの、全般的に投資や生産の抑制がみられ、特にコロナ禍の影響を大きく受けた自動車や外食など一般産業や、検診や一般診療分野など医療機関向けの販売が減少しております。一方、高い水準での生産の推移がみられた電子産業向けの水処理薬品や、除菌・消臭用の微酸性電解水であるオルプラスの販売などが好調に推移した結果、受注高13,821百万円（前年同期比0.1%増）、売上高13,567百万円（同2.6%減）、営業利益897百万円（同11.8%減）となりました。

(2) 財政状態の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産の残高は、前連結会計年度末に比べ7,168百万円増加し、108,616百万円となりました。これは主に、現金及び預金3,336百万円の減少に対し、受取手形及び売掛金6,145百万円、仕掛品を中心としたたな卸資産4,871百万円の増加によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末に比べ4,690百万円増加し、45,281百万円となりました。これは主に、その他の流動負債2,172百万円の減少に対し、短期借入金6,439百万円の増加によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末に比べ2,477百万円増加し、63,335百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上に伴う利益剰余金2,329百万円の増加によるものであります。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は1,752百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、新たに確定した主要な設備の新設は、次のとおりです。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	着工予定 年月	完了予定 年月
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)			
提出 会社	開発センター (神奈川県 相模原市 南区)	水処理エンジ アリング事業 機能商品事業	新実験棟	3,000	60	自己資金 及び借入金	2021年 1月	2022年 4月

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	25,392,000
計	25,392,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (2020年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2021年2月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	11,589,925	11,589,925	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株でありま す。
計	11,589,925	11,589,925		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2020年12月31日	-	11,589	-	8,225	-	7,508

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2020年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2020年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 83,100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,455,500	114,555	
単元未満株式	普通株式 51,325		
発行済株式総数	11,589,925		
総株主の議決権		114,555	

- (注) 1. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式4株が含まれております。
 2. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式19,700株(議決権の数197個)が含まれております。なお、当該議決権197個は、議決権不行使となっております。

【自己株式等】

2020年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) オルガノ株式会社	東京都江東区 新砂1丁目2番8号	83,100		83,100	0.72
計		83,100		83,100	0.72

(注) 役員向け株式交付信託が保有する当社株式(19,700株)は、上記自己保有株式には含まれておりません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2020年10月1日から2020年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2020年4月1日から2020年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,772	10,436
受取手形及び売掛金	36,783	2 42,928
電子記録債権	1,590	2 1,758
リース投資資産	11,752	10,273
商品及び製品	5,710	6,122
仕掛品	2,728	7,209
原材料及び貯蔵品	1,392	1,370
その他	2,448	3,502
貸倒引当金	98	107
流動資産合計	76,078	83,494
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	17,909	17,751
減価償却累計額	12,562	12,730
建物及び構築物（純額）	5,347	5,020
機械装置及び運搬具	5,697	5,663
減価償却累計額	4,974	5,026
機械装置及び運搬具（純額）	722	637
土地	12,284	12,277
建設仮勘定	98	313
その他	5,088	5,117
減価償却累計額	4,245	4,363
その他（純額）	842	753
有形固定資産合計	19,296	19,002
無形固定資産		
投資その他の資産	1,113	1,115
投資有価証券	1,553	1,708
繰延税金資産	3,037	2,956
その他	780	745
貸倒引当金	411	406
投資その他の資産合計	4,959	5,004
固定資産合計	25,369	25,122
資産合計	101,448	108,616

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,381	2 12,464
電子記録債務	-	4,464
短期借入金	7,644	14,084
未払法人税等	1,959	990
前受金	1,543	1,885
賞与引当金	1,339	643
製品保証引当金	324	334
工事損失引当金	64	53
役員株式給付引当金	105	72
その他の引当金	10	-
その他	4,866	2,694
流動負債合計	32,240	37,687
固定負債		
長期借入金	2,095	1,545
繰延税金負債	9	0
退職給付に係る負債	6,153	5,971
その他	91	75
固定負債合計	8,349	7,593
負債合計	40,590	45,281
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,225	8,225
資本剰余金	7,508	7,508
利益剰余金	46,081	48,411
自己株式	537	432
株主資本合計	61,277	63,712
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	143	198
為替換算調整勘定	178	263
退職給付に係る調整累計額	525	442
その他の包括利益累計額合計	560	507
非支配株主持分	140	130
純資産合計	60,857	63,335
負債純資産合計	101,448	108,616

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
売上高	67,352	68,736
売上原価	47,490	51,174
売上総利益	19,861	17,562
販売費及び一般管理費	12,386	12,300
営業利益	7,475	5,261
営業外収益		
受取利息	30	22
受取配当金	26	25
受取保険金	23	100
持分法による投資利益	150	99
その他	47	35
営業外収益合計	278	283
営業外費用		
支払利息	104	86
為替差損	94	30
貸倒引当金繰入額	78	-
その他	56	6
営業外費用合計	334	123
経常利益	7,419	5,421
特別利益		
固定資産売却益	0	4
投資有価証券売却益	4	14
施設利用権売却益	0	-
特別利益合計	5	19
特別損失		
固定資産廃棄損	10	113
投資有価証券評価損	-	13
施設利用権売却損	-	4
施設利用権評価損	-	0
特別損失合計	10	131
税金等調整前四半期純利益	7,414	5,309
法人税等	2,270	1,721
四半期純利益	5,143	3,587
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	7	3
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,151	3,584

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	5,143	3,587
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	18	55
繰延ヘッジ損益	0	-
為替換算調整勘定	198	99
退職給付に係る調整額	65	82
持分法適用会社に対する持分相当額	1	0
その他の包括利益合計	113	38
四半期包括利益	5,029	3,626
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,037	3,637
非支配株主に係る四半期包括利益	7	10

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	
税金費用の計算	当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果になる場合には、税金等調整前四半期純利益に一時差異等に該当しない重要な差異を加減したうえで、法定実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	
前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)(新型コロナウイルス感染症の影響について)に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定について重要な変更はありません。	

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
従業員の銀行借入金に対する保証債務	2百万円	0百万円
契約履行保証		
オルガノ(ベトナム)CO.,LTD.	23百万円	65百万円

2 四半期連結会計期間末日満期手形等

四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形等が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
受取手形	-	184百万円
電子記録債権	-	74百万円
支払手形	-	272百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
減価償却費	859百万円	889百万円
のれんの償却額	2百万円	-

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	506	44	2019年3月31日	2019年6月28日	利益剰余金
2019年11月5日 取締役会	普通株式	540	47	2019年9月30日	2019年12月9日	利益剰余金

(注) 1. 2019年6月27日定時株主総会決議による配当金の総額には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式に対する配当金3百万円が含まれております。

2. 2019年11月5日取締役会決議による配当金の総額には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれております。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年5月12日 取締役会	普通株式	655	57	2020年3月31日	2020年6月11日	利益剰余金
2020年10月29日 取締役会	普通株式	598	52	2020年9月30日	2020年12月7日	利益剰余金

(注) 1. 2020年5月12日取締役会決議による配当金の総額には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式に対する配当金3百万円が含まれております。

2. 2020年10月29日取締役会決議による配当金の総額には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式に対する配当金1百万円が含まれております。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	水処理エンジニアリング 事業	機能商品 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	53,425	13,926	67,352		67,352
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	249	250	250	
計	53,426	14,176	67,602	250	67,352
セグメント利益	6,458	1,017	7,475		7,475

(注) セグメント利益は、営業利益ベースの数値であり、四半期連結損益計算書の営業利益との間に差異はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	水処理エンジニアリング 事業	機能商品 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	55,169	13,567	68,736		68,736
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	247	248	248	
計	55,169	13,814	68,984	248	68,736
セグメント利益	4,364	897	5,261		5,261

(注) セグメント利益は、営業利益ベースの数値であり、四半期連結損益計算書の営業利益との間に差異はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
1株当たり四半期純利益	450.41円	312.52円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	5,151	3,584
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	5,151	3,584
普通株式の期中平均株式数(千株)	11,436	11,468

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 2. 役員向け株式交付信託が保有する当社普通株式を、1株当たり四半期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(前第3四半期連結累計期間71千株、当第3四半期連結累計期間38千株)。

2 【その他】

第76期（2020年4月1日から2021年3月31日まで）中間配当について、2020年10月29日開催の取締役会において、2020年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	598百万円
1株当たりの金額	52円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2020年12月7日

(注) 配当金の総額には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式に対する配当金1百万円が含まれております。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年2月10日

オルガノ株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小林 雅彦 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 桑本 義孝 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているオルガノ株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2020年10月1日から2020年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、オルガノ株式会社及び連結子会社の2020年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。